

1. 教員から

■ 谷口 純一 特任准教授

今年度も、昨年度に引き続き、個人的には、大学に設置された地域医療支援センターの教員として、同センター業務と、それ以外の従来取り組んできた内外の業務とを、バランスを取りながら、整合性をつけつつ、業務遂行を行なったつもりです。

地域医療支援センターの毎週月曜日の定例ミーティング、熊本県医療政策課との月1回の定例の連絡調整会議、地域医療機関への訪問、地域医療機関への診療支援、など機構業務の確実な遂行が出来たと考えております。

また、地域医療・総合診療実践学寄附講座とも連携を取りながら、新しい総合診療専門医の更なる養成に関して企画・立案しておりますが、次年度以降、それらを実施して行ければと考えております。

具体的には、地域医療支援機構としては、自分の活動として、特に、

- 1) 県内地域医療機関関係者への訪問、面談と分析・対応検討
- 2) 総合診療専門医の養成に関しての企画・立案
- 3) 地域医療関連の卒前教育の実施
- 4) 修学資金貸与制度の制度運営の実施と整備
- 5) 地域医療機関への診療・教育支援
- 6) その他、機構関連諸業務（運営会議、連絡調整会議、理事会、等）

また、機構業務以外の、個人的な大学内外業務の方は、

- 1) 大学病院総合診療科外来診療
- 2) 医学部医学科の卒前教育での複数の授業・実習
- 3) 大学卒前医学教育の横断的な業務補佐
- 4) 卒後初期研修・専門医研修（総合診療）の指導・プログラム管理補佐
- 5) 学外の様々な依頼業務（共用試験実施評価機構委員、臨床研修指導医養成ワークショップ等）
- 6) 学会や行政の各種委員会等（熊本総合診療研究会の運営、内科学会専門医部会、日本専門医機構総合診療専門医部会、など）

に取り組んだつもりです。

上記業務は、一定の成果が上がったと思われませんが、これから更に充実・整理させていく、或いは新たに取り組むべく必要性のある部分もあります。次年度は、上記に加え、個人的には、新しい立場での、診療業務、地域医療支援、総合診療医の養成、卒前の医学教育の充実、等に向け、自部署関連の協力・強化体制の強化と、外部のご理解・ご支援を更に活かせる様に取り組んでいく所存です。

■ 佐土原 道人 特任助教

地域医療・総合診療実践学寄附講座にお世話になり、まる3年が経ちました。診療支援先としては、蘇陽病院、阿蘇医療センターにお世話になりました。以前、診療支援先として行っていた天草地域医療センターに第2の地域医療教育拠点が出来たことは、さらなる第一歩となりました。大学病院での診療では、救急部での診療が加わり、総合診療部の外来が週2回から1回に減り大変残念で、働き方改革も踏まえ、ようやくタイムカードでの客観的な打刻が導入され、これまでと労働環境が変わって多少戸惑っております。

今年度は、研修医とはあまり現場の指導の接点がありませんでしたが、学生の課外活動として上球磨地域での夏季特別実習を計画、実行段階まで係わらせて頂き、今後の地域医療教育にとって大変参考になりました。関係各所の皆様方、大変ありがとうございました。前年度に続き、看護師特定行為指導者養成講習会の増加、看護大学院での授業などがあり、学会発表や学会活動は低調でしたが、資格としては、日本医師会認定産業医の資格と日本医療メディエーター協会の認定Bを取得しました。プライベートとしましては、自宅を新築し、建築物のレジリエンス、建築業の労働衛生や住宅の防火・耐震、住宅環

境基準、地域のサステナビリティなどに詳しくなりました。地域医療や総合診療の実践を行うにあたり産業衛生の幅が広がった気がしています。

来年度は、科研費の最終年度となりますので、成果をきちんとまとめたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

■ 後藤 理英子 特任助教

今年度は熊本県女性医師キャリア支援センターの取り組みを知っていただく様々な機会をいただきました。医師だけでなく、医療を担う多職種の働き方改革についても考える契機となり、私自身も大変勉強になりました。

また、11月には第8回西予市おイネ賞を受賞いたしました。皆様のご支援のおかげで続けることができた活動、熊本県の女性医師支援を、全国的に評価していただけたことに深く感謝申し上げます。熊本県、熊本大学病院、熊本県医師会、熊本市医師会、そのほかにも多くの関係者に協力していただきながら、一丸となって活動を進めてきた結果が、少しずつ身を結んで評価され、今後の活動にも期待を込められての受賞だったと、身が引き締まる思いです。

一方で医療人のキャリア支援を担うには自分自身も研鑽を積んでいく必要性を改めて感じた1年でもありました。基礎研究の仕上げ、学位取得、専門医取得、臨床研究の開始と、様々な経験をすることができました。

すべてのことが、皆様のご協力があって初めて経験できたことです。ご協力いただいております皆様に改めて深く感謝申し上げます。来年度も臨床、研究、教育、キャリア支援に、他者共栄の精神で一步ずつ前進する所存です。まだまだ未熟者ではございますが、今後ともご指導、ご鞭撻いただければ幸いです。

■ 高柳 宏史 特任助教

診療、教育、研究、学会や研究会活動、家庭と、やはり忙しい1年間でした。それぞれ、まとめたいと思います。

【診療】大学病院の救急と総合診療の外来を行っています。救急外来は多彩な患者さんの診療を通して、大学の各科の先生方と顔を合わせますし、大学のシステムを垣間見ることができるといえる点では学びがあります。また総合診療の外来も今の医療システムの中では対応できない患者さんと向き合うことができ、総合診療としてのやりがいを感じたりもします。しかし、自分のフィールドと一番感じるのは御所浦診療所の外来でしょうか。常勤ではないので、住民や地域との距離を感じますが、自分の専門とする家庭医療の実践を一番感じることができるため、毎週外来を楽しみにしています。

【教育】早期臨床体験実習Ⅲ、クリニカルクラークシップ「地域医療」の担当教員をしています。それが一番大きな仕事です。毎年少しずつ修正し改善できていると思います。2019年度ではできなかった「地域医療」に関する指導医講習会を2020年度では開催できればと思っています。地域で学生の指導を担っている先生方とよりコミュニケーションをとり充実した実習内容にできればと思っています。

【研究、学会、研究会活動】特に研究を進めていきたいのですが、なかなか手付かずになってしまっているのが現状です。少しでも進めていきたいと思っています。プライマリ・ケアにおけるデータベース構築、ICPCのコード分類の可能性、プライマリ・ケアと災害、それらのテーマについてこれからも深めていけたらと思います。そのためにも後進を育てられるように地方の研究会などの活動も活発にできればと思っています。

【家庭】できる範囲、育児・家事を担ってきました。家族との関わりは、自分の支えとなっていることも気づいています。ただ無理はしないように気を付けていこうと思います。

次年度も、引き続き精進してまいります。今後ともよろしく願い致します。

■ 前田 幸佑 特任助教

2016年4月に当講座に着任し、早4年が過ぎ去ろうとしております。大学病院内での業務としては主に総合診療科外来とER日当直の支援を行って参りました。学生の授業や実習等にも携わり、また、地域医

療支援としては主に上天草市立上天草総合病院で勤務致しました。さらに、社会人大学院生として基礎研究も行っており、2019年10月には日本血液学会学術集会で研究成果を発表し、現在は論文作成に取り組んでおります。また、今後は国際学会での発表を目指し準備を進めているところです。

この1年を振り返ってみて思うことは、本当に様々な貴重な経験をさせて頂いたということです。大学だからこそ様々なことが経験出来たと言っても過言ではないと思います。ただし、この環境を今後も希望するのか・継続していきたいのかということについては別で、自分の今後の進路について真剣に考えました。その結果、今年度をもって退職しようと思いを固めました。もっとアクティブな環境に身を置きたいと思っております。

4年間という短い期間では御座いましたが、これまで大変お世話になりました。有難う御座いました。今後も引き続き精進して参りたいと思っております。

■ 田宮 貞宏 玉名教育拠点指導医（公立玉名中央病院 副院長／総合診療科）

玉名拠点が設置された公立玉名中央病院の2019年度を振り返ると、前年度より噴出した種々の問題を抱えつつ始まり、新病院に開業が近づく中、どこか焦燥感がつきまとう毎日だったような気がしております。

総合診療科としても総合診療専門医プログラムのリクルートも苦戦を強いられ、今年度は1年次の専攻医がいない状況でのスタートとなりました。総合診療科開設以来、院内外での業務や活動が増えている最中ですので、かなり不安を感じておりました。

蓋を開けてみますと、あらたにスタッフに加わっていただいた武末先生、中村先生の両医員には多大な負担を掛けてしまう結果になっておりますが、おかげで今年度も診療および教育のレベルはさらに向上していると感じています。また、小山部長は診療・教育業務に留まらず、新病院の診療体制の構築の中心となり様々な困難な課題に取り組み続けてきています。このような頼もしい仲間恵まれていることに感謝するとともに、彼らや初期研修医、専攻医らの日々の労働環境の改善、キャリア支援は喫緊の課題と認識しており、私としては焦燥感を持ち続けることが大切な仕事と思ひ直し課題に対処して行きたいと考えております。最後に今年度も変わらず、ご支援、ご助言いただいた皆様に御礼を申し上げて報告とさせていただきます。

■ 小山 耕太 玉名教育拠点指導医（公立玉名中央病院 総合診療科部長／総合診療科）

「総合診療科の医師として、部長として」

2019年は公立玉名中央病院としても、総合診療科としても「変化の年」でした。病院に関係する不祥事に始まり、管理部門では新理事長をお迎えしました。診療科としては田宮貞宏部長が副院長に就任され、私が総合診療科部長に就きました。それまで診療・教育業務に自分の力のほぼ全てを注力すれば良い状況から一変、それまでとは違う意味(様々な意味)で重責が伴う管理の仕事が激増しました。

公立玉名中央病院は、2021年度末を目途に玉名地域保健医療センターと合併し、新病院「くまもと県北病院」を新玉名駅近くに開院します。それに向け、これまで以上に地域の期待に応えるべく、新たな診療体制も構築されます。この診療体制改革プロジェクトの診療調整部門を担当させて頂くことにもなり、院内のみならず、かなり多くの方々と共同で調整を行っております。改めて、多くの方々のお力添え頂いたおかげで、これまでも当院が機能していたことを実感・感謝する毎日です。そして、これからもその「地域の力」は必要不可欠と言えます。

2020年は、「改革の年」になると思っております。地域の医師として、病院の総合診療科部長として、新病院の診療調整リーダーとして、「地域に貢献できる医師は地域で育てる」を念頭に、玉名地域の診療と、熊本県の総合診療教育を牽引する総合診療科を、これからも発展的に展開することをここに約束します。そして、メイドイン玉名の医師が、県下全土で活躍できるようなシステムを今後も構築し続けます。

どうか、皆様のご指導とご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

個人的には、論文執筆もしたいところです。誰か、手伝って！(笑)



新病院完成予想図

■ 高杉 香志也 天草教育拠点指導医（天草地域医療センター 総合診療科）

思い返すと、一年前の2019年の今頃は、地域医療実践天草教育拠点立ち上げに際し、医師会の先生方への挨拶、総合診療科の紹介スライドを作っていました。

天草へ赴任後は怒濤のような日々でしたが、松井先生、谷口先生、天草地域医療センターの原田院長先生をはじめとした医局、スタッフの方々の御協力により、総合診療科 天草教育拠点としての立ち上げは順調であったと思います。あらためて感謝を申し上げます。

天草での当科の役割は、病院総合診療医として期待されている所が大きいものでした。common diseaseから希少疾患までの幅広い診断、救急対応から慢性期対応、HCU管理から一般病棟管理まで幅広く病院総合診療を学ばせて頂きました。天草地域の拠点病院であるため重症疾患は多いものの、医局間コンサルトはスムーズで画像診断機材、素晴らしい読影をして頂く放射線科Dr.も揃っており非常に働きやすく、研修医、専攻医が学ぶ場としても非常に素晴らしい病院だと感じています。

ここまで記載したのは2月下旬、一身上の都合で3月までで退局させて頂く事となり、皆様へ大変申し訳なく思い筆が止まっていました。このまま寄稿はせずフェードアウトしようと目論んでいたのですが、かえって御迷惑おかけする事となりそうで3/9急いで執筆しています。

次の赴任地である与論島は、人口5300人、周囲25km、空と海と笑顔の素敵な小さな島なのですが、医療情勢はとても苦しいものとなっています。ここで学んだ事を生かし地域医療を継続する事、又そこで出会う若い医師と共に学ぶ事（できれば熊大総合診療科のリクルートにつなげる事！）を皆様への恩返しとして頑張っていこうと思っています。

本当にありがとうございました。

■ 鶴田 真三 天草教育拠点指導医（天草地域医療センター 総合診療科）

2019年4月に天草地域医療センター総合診療科および教育拠点の新設に際し、高杉先生、空田先生とともに赴任させていただきました。久しぶりの2次医療機関、久しぶりの病棟管理でしたが、高杉先生はじめ周囲の方々に恵まれ、診療面についてはなんとか約1年、大きな問題なくすごすことができました。

しかし、1年前に自分自身が天草でやりたいと思っていたこと（地域の多職種との枠を超えた連携、ヘルスプロモーションなど地域での活動、総合診療医としてのシステムづくり、等）については、正直ほぼなにもできておらず、反省の思いばかりです。

現状、ほとんど地域にできることができていません。力不足を実感しています。天草の広大な範囲で、医療機関や福祉機関も多い点でも、予想はしていましたが難しさを実感しました。これからも、まずは限られた範囲でももっと人脈を広げて努力していきます。よりよい地域医療につなげていけるよう、少しずつ活動していきたいと思っています。天草地域の医療の問題点、これから自分たちが主になって貢献すべき課題は、天草に赴任したからこそ見えてきた部分もあります。次の1年では、少しは具体的に前進したいと思います。

また、教育拠点でありながら初期研修医や学生の指導を行う機会がほとんどありませんでした。初期研修医や学生に、研修や実習で総合診療科を選んでもらえるよう、楽しく、学びを提供できるよう、地道に努力していこうと思っています。

個人的には、自分の力不足のためになかなか充実した日々を送ることができず、思い悩む毎日です。しかし、天草地域医療センターに在籍するのもあと1年なので、このまま終わらず、今後の地域医療センターに関わる医療、教育のためにも、何らかの形をつくっていこうと思っています。もちろん、天草地域全体に対する貢献は今後ずっと行っていくつもりなので、課題や障壁は多々ありますが、ひとつひとつ、できることを具体的に行います。なかなか貢献できておらず申し訳ありませんが、今後ご協力をよろしくお願いいたします。

2. 事務から

光陰矢の如しと言いますが、あっという間の6年間でした。振り返ってみますと、最初の2年間は、修学資金貸与医師の皆様の勤務先等の制度設計や地域教育拠点の整備など基礎づくりの時期でした。その後の2年間は、割りとレールに乗って淡々と業務を行ってきたような気がします。最後の2年間は、医療法等の改正があり、県主導での新しい計画作りが始まり、そのお手伝いをするのも役割でした。

この間、学生の皆さんは次々に卒業され、それぞれ地域医療の道を行って行かれました。また一方、毎年はつらつとした学生さんをお迎えし、自身も若返りの効果を頂きました。皆様の今後社会への末長い貢献とご自身のお幸せをお祈りします。

私も社会との接点を大事にしていきます。お世話になった皆さんとばったりお会いするのを楽しみにしています。その時はよろしくお願いします。再見

坂田 正充
地域医療支援
コーディネーター

地域医療支援センターには、4月から勤務しております。気が付くと1年が経ちました。

今は大学病院勤務ですが、もともと病院にかかるのがいやで、体の不調はできるだけ気合で治すタイプで、病院とは縁遠い方でした。4月当初出勤時に外来棟にたくさんの患者さんが朝早くから順番待ちをしている姿を見てびっくりしたのを覚えています。また、自分も年を重ねてひざや腰など体のあちらこちらにガタが来ています。早く治してくれそうな病院を探すようになりました。そういえば、子供が小さい頃は、熱発すると夜間でも診てくれる病院に直ぐ連れて行っただけ、やっぱり現代人の生活に医療機関は無くしてはならない大切なものなんだと改めて実感しています。

誰もが、どこにいても安心して医療機関で診療を受けられること、そんな人々のささやかな、でも大切な願いのために、お医者さんがちゃんといてくれる環境になるように、微力ではありますが頑張ります。皆さんよろしくお願いします。

松岡 大智
地域医療支援
コーディネーター

今年度は肅々と進めてまいりました熊本県女性医師キャリア支援センターの活動ですが、マタニティ白衣・パンツの貸出し、男女医師からの相談、全国より熊本県医師キャリアサポートブック（CLOVER）についての問い合わせが多数ありました。これも学会等で当センターの活動を周知していただいた先生方のおかげだと感謝しております。

今年一番の思い出は、第8回西予市お伊ネ賞事業において後藤先生の授賞式に参加させていただいた事です。会場の大きさと、そうそうたる来賓の方々に驚き、参加しただけの私も緊張しました。

来年度は、熊本県医師キャリアサポートブックの第4版の作成やアンケート調査、また地域でも女性医師が働きやすい環境づくりを色んな部署と連携しながら進めていきたいと思っています。

高塚 貴子
女性医師復職支援
コーディネーター

寄附講座に入ったばかりの頃は、何も分からず日々の業務に追われ、気が付けば最後の任期の年を迎えておりました。5年前はこじんまりとしていた事務室が、事務の方も増え、今では活気に溢れています。どんな企画でもチームワークで乗り越えていくことができる逞しい事務の皆さんです。

「夏季実習」は、毎回準備が大変ではありますが、地域の方々や学生の皆さんとの交流もあり、楽しみながら従事させていただき、終わった後の達成感には言葉では表せないものがありました。また、「地域医療ゼミ」では、新入生を迎え入れ、卒業生を送り出していくなかで、学生同士の縦の繋がりをもっと持てるように、今後は、交流の場をさらに有効に使って欲しいと思います。医師を志す学生の皆さんが、地域で活躍されますよう願っております。

寄附講座で務めさせていただきましたこと、先生方、事務の皆さん、学生の皆さんとの出会いに大変感謝しております。ありがとうございました。

久保 清美

こちらで仕事をして5年が経ちました。長年のようでいて、しかしあつという間でもありました。最初の1年は「知る」ことにつきます。今まで全く関わりのなかった医学生がどんな人たちなのかを知るために、お話を聞いたりゼミを見学したりして少しずつ知っていきました。2年目は地震が発生し、学生ながらも被災地での医療に携わる医学生やその後も被災した人たちのために活動を続ける医師達の姿に尊敬の念を覚えました。3年目という仕事に慣れてきた頃に母を亡くし、業務もままならない中を職場の皆さんに支えていただきました。4年目は立ち直りかけた中でさらに父を亡くし、私事も仕事も大変ながらなんとかやってきました。5年目は祖母たちの面倒を見ながらどうにか仕事も続けて、私生活も大変でした。そんな大変な中ですが、自分の作ったポスターを見て講演会に来てくださった方がいたり、作った資料が皆さんの役に立ったりすることでとても励みになりました。今までの自分の仕事が皆さんの役に立てていたならばうれしい限りです。5年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

中川 実咲

今年度は地域医療・総合診療実践学寄附講座に在籍させて頂き、昨年度に続き、主に学生の皆さんの学外実習、講義等の事務補助をさせて頂きました。医学科5年～6年次での特別臨床体験実習(クリクラ) もちろんですが、3年次に行う「早期臨床体験実習Ⅲ(ECEⅢ)」の振り返りでも、学生からは「大学病院内では体験出来ないことができてとても有意義だった」、「もっと長い期間行いたかった」という感想があり、施設側からも「学生を受け入れて施設内にも活気がでた」、「初心に帰った」等、今後も協力していきたいとの感想を多くいただき、そのような実習のお手伝いが出来たことを大変嬉しく思っています。こうした実習を通して、1人でも多くの学生が医師として成長し、そのなかで地域医療の重要性ややりがいを感じてくれることを願いながら、来年度は更に別の形で講座のお役に立てるよう頑張りたいと思っています。

山口 香

今年度は私自身活動の範囲を広げ、夏季実習は企画段階から参加させていただいたり、京都で開催された日本プライマリケア連合学会学術集会にも参加させていただきました。

夏季実習では自治体や関係施設の方々とは接することが増え、その中で皆さんの医学生に対する期待の大きさをひしひしと感じました。学生の皆さんもその期待を感じ取ったのではないのでしょうか。地域の方々の切実な思いに応え、皆さんがいつか夏季実習で訪れた地域で勤務されることを期待します。

日本プライマリ・ケア連合学会学術集会では、初めて学会に参加し、志同じく活躍されている先生がこんなにたくさんおられるんだびっくりいたしました。日頃机上の書類の処理に追われ、自分の仕事の本質を忘れがちですが、先生方・学生の皆さんが地域医療、総合診療に情熱を燃やす原点や熱意を感じることができ、一事務の私でも先生方と同じ方向を向いて働くきっかけとなる良い経験をさせていただきました。

この経験を活かして、皆様のサポートを今後一層頑張りたいと思います。

山並 美緒

今年度は例年開催している講演会やセミナーに加え、臨床研究ワークショップ、夏季実習、他県で同じような取り組みを行っている機関への視察等、いつになく様々な経験をさせていただきました。夏季実習と他県の視察では私自身はじめて訪れる地域ではありましたが、立地状況や町並み・暮らしなど、訪れることで事前情報では気づかなかった部分が見えたり、新たに気づいたりする部分も多くありました。その地域のすべてを知ったわけではないですが、「百聞は一見にしかず」まさにこのことだなと感じました。

また、ここでの業務に携わらせていただき4年が経ちました。センターに関するほとんどの事務処理を私が行っておりますので、つい「ひとりでやっている」と思ってしまうこともあります。いつも、コーディネーターや寄附講座事務員の皆さんの温かい支えにより円滑に業務をこなすことができます。感謝申し上げます。また、先生方、他部署や関連機関の皆さまにも、いつもご協力いただき大変助かっております。いつもありがとうございます。

まだまだ至らない点も多いですが、これからも、熊本県地域医療支援機構ならびに地域医療支援センターの活動がより良いものとなるよう、微力ながら精一杯サポートさせていただきたいと思っています。

横手 友紀子

3.あ と が き

2019年度は、2020年になって、COVID-19（コロナウイルス）のパンデミックで、日本のみならず、世界中が大きな災難に見舞われ始めました。医療の現場もその対策に追われ、熊本県の地域医療機関にとっても、苦難が生じ始めていると感じております。

その様な中で、2019年度の私ども「地域医療支援センター」の活動をご報告させていただきました。設置から6年目となり、今年度は、「地域医療・総合診療実践学寄付講座」の「天草教育拠点」を新たに設置し、地域で総合診療での貢献と人材育成を展開する事ができました。今後、県の修学資金貸与制度の卒業生がますます地域の医療機関に出ていく事が増えて参りますが、地域貢献とキャリア形成を更に充実させていく方策を進めていきたいと思っております。

男女共同参画事業も「熊本県女性医師キャリア支援センター」として、地道に着実に活動を続けておりますが、少しずつ成果も出てきていると思われます。こちら、より一層のご理解を賜りたいと願っております。

次年度は、熊本県とも更に協力して「地域医療対策協議会」の実施・運営や、「熊本県地域医療ネットワーク構想」の遂行に協力し、熊本県の「第7次保健医療計画」の実現に微力ながらお役に立てればと願っております。

最後に、谷原病院長・機構理事長を始め、大学内の様々な先生方、事務方等には多々ご指導・ご支援いただきました。また、当地域医療支援センターの事務部門のスタッフの方々および、県庁の医療政策課の方々にも、多大なるご助力をいただきました。本年度も地域医療の貢献の為にご理解いただいた全ての関係者に、あらためて、一層の感謝を申し上げますとともに、次年度もどうか宜しく願い申し上げます。

地域医療支援センター 谷口 純一

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター



〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1

Tel: 096-373-5627 Fax: 096-373-5796

E-mail: chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp

HP: <http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/>

熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1

Tel: 096-373-5794 Fax: 096-373-5796

E-mail: chiiki_soushin@kumamoto-u.ac.jp

HP: <http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/dcfgm/>

令和元年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター

熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

